

命を描く

山内若菜 広島展

—過去と現在、そして未来へ—



《讃歌 樹木》3m×9m(部分)

日時：2024年 3月20日(水・祝)～25日(月)

10時～17時(最終日は15時まで)

場所：旧日本銀行広島支店

〒730-0036 広島市中区袋町5番21号

広島駅から広島電鉄路面電車①号線広島港(宇品)行、「袋町」下車

ギャラリートーク

3月20日(水・祝)、21日(木)、22日(金)、23日(土)、25日(月)
(各回14:00～)

ワークショップ「広島のお〇〇を描こう」

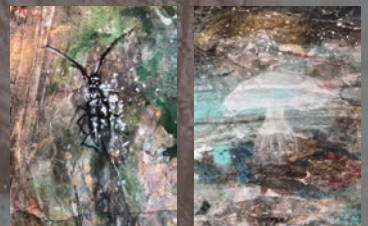
3月24日(日)13:30～15:30(参加費無料、要事前申込(定員20名))

広島大学の授業※でおこなっているワークショップを旧日銀で開催

詳細はちらし裏面をご確認ください

※平和科目「文学と芸術から考える核時代」

入場無料



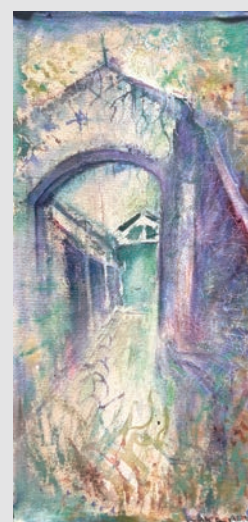
絵のなかのちいさないきものたち
みつけてみてね!



主催：山内若菜展 in 広島実行委員会

共催：広島大学総合科学推進プロジェクト「核・原爆にまつわる表現の探究——アーカイヴズ・記憶と現代を架橋する実践」

JSPS 科研費基盤研究(B)「環太平洋圏における核と原爆をめぐる想像力と植民地主義の研究」



上《旧日銀前の木》広島市中区袋町風景 1
中《被服支廠の扉》広島市南区出汐風景 10
下《貯蔵庫跡》大久野島風景 3



命と希望の三部作 広島・長崎・福島を描いた大作を展示

平塚市美術館での展示風景（2022年）左から《天空昇》《刻の川 揺》《牧場 放》

広島を歩いていると、思わず立ち止まり、見入ってしまう光景に出会います。

いつ歩いても、新しい発見があり、町全体がまるでアート作品のようにも感じられ、同時に遺されたものから、声なき声が聞こえてくるような、それが私にとっての広島です。

ここは、原爆ドームや旧日本銀行広島支店、旧広島陸軍被服支廠をはじめ、遠くは大久野島に至るまで、歴史を振り返れば加害と被害という、二重性を生きる町でもあります。けれども、傷つきながらも町のそこ・ここに生き続ける被爆樹木の緑は力強く、目に見えない微生物たちが命の連鎖を続けて、きょうこの日がある。

私は、この展覧会に向けて準備を進める中で、その感動的な姿を力いっぱい表現したいと考えました。この展覧会では、《讃歌 樹木》などの大作をはじめ、広島での出会いから生まれた小品など、約50点をご覧いただきます。どうぞ、ご来場いただき、絵の前で感じたこと、受け取られたことなど、ご感想をお聞かせください。希望の光を求めて、広島のみなさんとともに、歩みたいと思っております。

山内若菜



【プロフィール】1977年神奈川県藤沢市生まれ。2009年から、ロシアで「シベリア抑留」を忘れない文化交流を開始。2011年から、福島、岩手でのフィールドワークを重ね、福島の母や牧場を描いた展示を各地で開催。2016年から、岡山県、横浜市などの中学校にて芸術鑑賞授業、講演会を開催。2016年、原爆の図丸木美術館「牧場山内若菜展」。2017年、ロシア国立極東美術館「牧場山内若菜展」。2021年、原爆の図丸木美術館「はじまりのはじまり山内若菜展」。2021年、第八回東山魁夷記念日経日本画大賞入選。2022年、平塚市美術館常設展特別出品。

関連 イベント

ギャラリートーク

3月20日(水・祝)、21日(木)、22日(金)、23日(土)、25日(月)
(各回 14:00~)

本展について作家がお話します。
参加ご希望の方は時間までに受付前にお集まりください。

ワークショップ「広島のお〇〇を描こう」

3月24日(日) 13:30~15:30

【参加費無料、要事前申込(定員20名) QRコードまたはURLより】

対象：4歳以上大人まで



子どもたちと一緒に描くワークショップを予定しています。過去と現在、そして未来を考えながら絵を描くというアウトプットを若い人々に促し、希望のまち広島を次世代へ残してゆきたいです。

- 参加者の準備物はありません。紙や画材はご用意します。
- 作家が準備した和紙に描きます。作品はお持ち帰りいただけます。
- 汚れてもよい服装でご参加ください。
- ご参加中の写真を、作家の活動報告として使用させていただく可能性があります。差し支えがある場合は事前にお伝えください。



ワークショップ
お申込は
こちらから

<https://bitly.ws/39cvs>